

研究背景

自動車業界における電動化

good

エンジンノイズの消失により、車室内の静音化が進む。

bad

モータ音等が不快感に影響する。



EV車室内の空間価値を向上させる音質を追求する



研究目的

EV車室内の価値性の探索

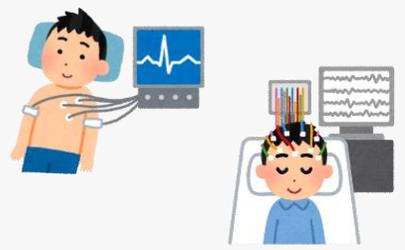
人間が運転時に感じる感情である快適感、覚醒度、疲労度、ストレス度などを生体情報により客観評価を行い、生体情報と主観評価との対応を明確にする。

- ➡ 音による感情コントロールが可能
- ➡ EV車室内の空間価値の向上

研究内容

計測手法の選定

定速・緩加速において、リアルタイム性などの観点から、適切な生体情報の計測手法を選定する。



複合刺激評価

定速・緩加速において、
➤ 聴覚
➤ 聴覚＋視覚
➤ 聴覚＋視覚＋加速意思による刺激を与え、主観・客観評価を行う。



快音化指針の構築

- ・感情評価指針をもとに、快音に感じる音質の把握。
- ・音源提示によりシーン別に音と感情の一体感を主観・客観評価から把握する。

